

ひょうごの古窯・やきもの

【暫定版】

郷土史探訪ツーリズム研究所資料

dt24koy.pdf

兵庫県には、日本六古窯の一つ「丹波立杭焼」が平安時代から始まっており、古くからやきものが興隆してきました。特に近世に入って、丹波焼の多彩な展開に加えて県下各地で窯が作られ、多種多彩なやきものが行われるようになりました。特に、京焼系、京焼風の陶器を焼く窯が多く見受けられました。

(※日本六古窯：瀬戸焼、常滑焼、越前焼、信楽焼、丹波立杭焼、備前焼)

●兵庫県の主要なやきもの（概説）

総称	種類	地域	創始期	特色等
丹波焼	陶器	篠山市を中心に丹波市、三田市、西脇市	平安時代末	17世紀前半に窖窯から登窯へ。中世から施釉陶器生産。装飾技法多様で磁器タイプ陶器も。日用品以外に茶入や水指も。
明石焼	陶器	明石市、神戸市垂水区一帯	安永7(1778)	京焼風。日曜製品が主。魚住窯が初
出石焼	陶磁器	豊岡市(出石町)	寛政5(1793)	伊万里焼系。染付磁器(江戸時代)から白磁へ(明治時代)。
三田焼	陶磁器	三田市	寛政11(1799)	京焼系。青磁・染付・赤絵を中心に磁器から陶器。三田青磁。三輪明神窯が初。
東山焼	陶磁器	姫路市	文政5(1822)	京焼系。青磁・染付が中心。興禅寺山窯が初。
王地山焼	陶磁器	篠山市	文政11(1828)	京焼系。青磁・染付が中心で赤絵・交趾釉なども。青磁は型押し成形で染付けは中国磁器図柄。
珉平焼	陶磁器	南あわじ市	天保3(1832)	京焼系。名工の写し、染付・交趾など中国磁器タイプなど多種多彩。創始者は賀集珉平。
高屋焼	磁器	豊岡市	19世紀中頃	出石焼から技術導入。染付、日用品が主。

●ドピックス「丹波焼最古の登窯の修復」

日本六古窯の一つ「丹波焼」の産地（兵庫県篠山市今田町上立杭）には、明治28年（1895）に築窯され、まだ現役最古の登窯（要記録作成無形文化財、県有形民俗文化財）の経年変化による窯本隊の傷みが激しく、いま修復が行われています。「蛇窯」と呼ばれ、山の斜面に沿って割った竹を伏せた形の割竹式の登窯。床面に段差が無く、9つの焼成室（袋）が連なる構造。登窯の修復に併せ、登窯を活かした丹波焼の里の魅力づくりが進められています。



修復中の登窯



登窯の構造（陶の郷より）



登窯の伝統的な築き方（同左）

神戸

系統	系統内 記	名称	所在地	時期	焼き物・その他
京焼及び 準京焼系	舞子焼	舞子焼	神戸市垂水区西 舞子	寛政頃～大正末	衣笠百太郎、明石市大蔵八幡 町
		(再掲) 三国焼	(明石市大蔵 谷)	文化7～明治	三国久八
		(再掲) 土焼	(同上?)	明治末～昭和初(大 正末)	三国焼の三里弥吉ら
	須磨焼	古須磨焼		江戸後期?	気漸、気海?
		須磨焼	神戸市須磨区須 磨寺町	明治末(直井与吉の 作)、大正～昭和9 (登山の作)	明治30年頃に一の谷で須磨 焼再興、西月、児島宗行
		西月	神戸市須磨区月 見山	天保初～江戸	『須磨誌』(明治29年)
	有馬焼	有馬焼	神戸市北区有馬 町	明治30頃～大正	丸窯、佐々木孝山(明治30 ～)
名古屋七 宝系		布引焼	神戸市中央区熊 内町付近	明治中～末	布引の滝東側山麓、川崎正蔵
大阪焼系		下山手焼	神戸市中央区下 山手通トア・ ロード西辺	明治末～大正	大阪幸橋系の貿易品、田村文 七
		脇之浜焼	神戸市中央区脇 浜地区	明治末～大正	大阪幸橋系の貿易品、田中熊 吉
久谷焼系		神戸薩摩焼 (湊光焼)	神戸市中央区下 山手通	明治初～昭和末	神戸産の輸出陶器、SOKO・ ART・CHINA
楽焼		湊川焼	神戸市中央区多 聞通附近	大正末～	湊川神社前の八千代座すぐ北 側
		鶉(ひよどり) 焼	神戸市兵庫区下 沢通	安政頃?	藤田積裕
		春山焼	神戸市須磨区大 手町	明治後半(大正 末?)～昭和初	有馬春山
		鷹取焼	神戸市須磨区板 宿町	明治40頃～昭和初	武井伊右衛門、百耕資料館
		朝露焼		天保6	次郎兵衛

阪 神

系統	系統内 記	名称	所在地	時期	焼き物・その他
京焼及び 準京焼系	三田焼	三田焼	三田市	寛政～ 大正末	欽古堂亀祐
		志手原窯	三田市志手原	宝暦以前～ 終戦後（大正末？）	小西金兵衛
		天狗ヶ鼻窯	三田市三輪	天明9～昭和	三輪明神窯の試行型、内田忠 兵衛、神田惣兵衛
		三輪明神窯（三 田青磁）	三田市三輪	寛政11～大正11	欽古堂亀祐
		虫尾新田窯	三田市大原町字 虫尾新田	文政5～嘉永頃	九谷焼系、松屋菊三郎？
		亀井（居）家窯	三田市三輪	幕末～昭和初	
		（再掲） 王子山焼	（篠山市）	文政元年～ 明治初	篠山藩窯、三田焼の兄弟窯、 欽古堂亀祐、神田惣兵衛、兵 庫県伝統的工芸品
		（再掲） 篠山焼	（篠山市乾新 田）	明治末～ 昭和初	今村静斎
		（再掲） 古市焼	（篠山市丹南町 古市）	江戸末	三田焼の分窯、神田惣兵衛
	琴浦焼	琴浦焼	尼崎市	明治末～現代	桐山
打出焼	打出焼	芦屋市	明治中～終戦後		
古丹波焼	丹波焼 （立杭 地方）	（再掲） 上相野窯（釜 屋、鳶ヶ尾）	三田市上相野	桃山末・江戸初以降 （宝暦元年？）	登窯時代、釜屋時代、（山麓 時代）、徳左衛門ほか
		（再掲） 下相野窯（釜 屋）	三田市下相野	桃山末・江戸初以降	登窯時代、釜屋時代、（山麓 時代）、
		（再掲） 四辻窯	三田市四辻	桃山末・江戸初以降	登窯時代、釜屋時代、（山麓 時代）、
		（再掲） 上相野窯（田中 東）	三田市上相野	桃山末・江戸初以降 （宝暦2～明治維 新）	登窯時代、里窯時代
江戸系		半七焼	宝塚市	大正末～現代	野村徳七
楽焼系		太閤焼	西宮市	大正初～現代	平内
		沢谷焼	三田市沢谷	昭和17～	丸窯、七兵衛
		伊丹焼	伊丹市	明治（江戸中？）	近衛家御庭焼
		宝塚焼	宝塚市		大阪十三軒吉向焼系の出窯？
		雲雀丘焼	宝塚市雲雀丘	昭和14～15	小林一三翁系
		芦屋焼	芦屋市		「蘆屋」刻印
		武田尾焼	宝塚市	～昭和19	亀井吉之助
		三田陶器社	三田市？	明治7頃	

東播磨

系統	系統内 訳	名称	所在地	時期	焼き物・その他
京焼及び 準京焼系	明石焼	明石焼	明石市中谷山、 二本松	江戸中（元和8?） ～日之出興業(株)登窯 （大正6?）	安永7の魚住窯が初?、朝霧 焼へ、寛永2頃明石に移転?
		朝霧焼	明石市大久保 町、明石市人丸 町・東仲之町	天明頃～戸田秋嶺作 （昭和17）	吉向治兵衛?
		三国焼	明石市大蔵谷	文化7～明治	三国久八
		土焼	明石市大蔵谷?	明治末～昭和初（大 正末）	三国焼の三里弥吉ら
		人丸焼	明石市大蔵谷	江戸末～明治	雅陶、富永種治郎
		ほのぼの焼	明石市大蔵谷	江戸末	人丸焼と同窯
		葎原（よしは ら）焼	明石市中崎	明治初～終戦後	白水屋俵次郎
		明石錦泉窯	明石市中崎	大正9～昭和32	白水熊吉
		魚住焼	明石井魚住町中 尾	明治13～終戦後 （大正10?）	西海音助、泉兵次郎
		文趾（こうち） 焼	明石市大蔵谷	明治初～大正末	富永種治郎
		緑風台窯	西脇市野村町字 緑風台	平安末～	穴窯、緑風台古窯陶芸館
		樂焼	明石市天神社前	明治末～昭和22	丸窯、山中源蔵ほか
		利平焼	明石市茶園場	天正年間	紀太利兵衛?
		亀山焼	加西市		
		宝殿焼	高砂市伊保町	安政頃?	「伊水」鉢、安永頃のモー ス説? 『日本古陶銘款集（近畿 篇）』（昭和15）
		高砂焼	高砂市?		「高砂」刻銘
		金崎焼 （紫泥焼）	明石市		

西播磨

系統	系統内 記	名称	所在地	時期	焼き物・その他
京焼及び 準京焼系	東山焼	東山焼	姫路市白浜区東山	文化・文政～明治初	酒井藩御用窯、尾形周平ほか、（再興：播陽東山焼）
		興禅寺山窯	姫路市白浜区東山	文政5～	藤作
		男山窯	姫路市山野井町	天保2～明治初	興禅寺山窯より、、御用陶器所、藤作ほか、河合寸翁
	野田焼	野田焼 （龍野焼）	たつの市揖保川町野田	寛政9～明治43	
	相生焼	相生焼 （古池焼）	相生市古池	文化10～明治12	半陶半磁、土井庄右衛門
	新宮焼	新宮焼	たつの市新宮町	嘉永3～明治15	野田焼から、
源谷（げんこく）焼		宍粟市山崎町源ヶ谷	江戸末～昭和	坂根栄次郎	
伊万里焼系	永世舎	永世舎	姫路市大蔵前町	明治9～17	旧藩士の授産施設
		鷺脚焼		明治14～現代	永世舎の中川勇次郎
江戸系	赤穂焼	赤穂焼 （黄谷焼、紫雲焼）	赤穂市加里屋町新土手	嘉永～明治末	大嶋黄谷
		雲火焼 （新土手焼）	赤穂市加里屋町新土手	嘉永～明治37	再興：昭和期～、兵庫県伝統的工芸品
		御蔵（おくら）焼	赤穂市赤穂城清水門前	明治初	士族の授産施設
		林田仁清焼 （林田焼）	姫路市林田町	江戸前期	幻の窯、野々村仁清？
		那波仁清窯	相生市那波若狭町入野		
		龍野焼 （孔雀焼）	たつの市		
		姫路焼	姫路市		

但馬

系統	系統内 記	名称	所在地	時期	焼き物・その他
伊万里焼 系	出石焼	出石焼	豊岡市出石町	天明4（寛政5?） ～現代	丸窯（出石町谷山）、『伊豆屋弥左衛門記録』（寛政元年）、土焼から磁器（寛政年間）へ、国指定伝統的工芸品
		溪司焼		安政～明治中	京焼風、倉谷溪司
		高岡焼	豊岡市出石町	天保元～12	京焼風、連房式登窯、本井仁衛門、高岡源蔵
		盈進（えいしん）社		明治9～18	士族授産施設
		豊山焼	豊岡市出石町三宅	明治～大正	京焼風、沢田筆太郎
		三宅焼	豊岡市出石町三宅	明治30～大正	京焼風、垣添石松
		高屋焼	豊岡市高屋、金山	天保～明治初?	本井仁左衛門?
		八鹿焼（神田山焼）	養父市八鹿町	明治5～昭和4	『伝統法』より、植木清兵衛

丹 波

系統	系統内 記	名称	所在地	時期	焼き物・その他
古丹波焼	丹波焼 (立杭 地方)	三木峠窯	篠山市今田町小野原	平安末～ 桃山末・江戸初	穴窯時代（小野原焼時代）、 卯太郎ほか
		床谷（とこらり）窯 （金兵衛山窯）	篠山市今田町小野原	平安末～ 桃山末・江戸初	穴窯時代（小野原焼時代）
		源兵衛山窯	篠山市今田町小野原	平安末～ 桃山末・江戸初	穴窯時代（小野原焼時代）
		太郎三郎（たさうら）窯	篠山市今田町小野原	平安末～ 桃山末・江戸初	穴窯時代（小野原焼時代）
		稲荷山窯	篠山市今田町小野原	平安末～ 桃山末・江戸初	穴窯時代（小野原焼時代）
		上相野窯 （釜屋、鳶ヶ尾）	（三田市上相野）	桃山末・江戸初以降 （宝暦元年？）	登窯時代、釜屋時代、（山麓時代）、 徳左衛門ほか
		釜屋窯 （中筋）	篠山市今田町釜屋	桃山末・江戸初以降	登窯時代、釜屋時代、（山麓時代）、
		下相野窯 （釜屋）	（三田市下相野）	桃山末・江戸初以降	登窯時代、釜屋時代、（山麓時代）、
		四辻窯	（三田市四ッ辻）	桃山末・江戸初以降	登窯時代、釜屋時代、（山麓時代）、
		釜屋窯 （南・中）	篠山市今田町釜屋	桃山末・江戸初以降 （宝暦2～明治維新）	登窯時代、里窯時代、正光直八ほか
		下立杭窯 （南・中・北）	篠山市今田町下立杭	桃山末・江戸初以降 （宝暦2～明治維新）	登窯時代、里窯時代
		上立杭窯 （南・東・北）	篠山市今田町上立杭	桃山末・江戸初以降 （宝暦2～明治維新）	登窯時代、里窯時代
	上相野窯 （田中東）	（三田市上相野）	桃山末・江戸初以降 （宝暦2～明治維新）	登窯時代、里窯時代	
	（現在）	篠山市	現在	丹波立杭陶磁器協同組合、国指定伝統的工芸品	
	その他の傍系 丹波焼	大路焼	丹波市春日町野瀬谷	江戸初～寛永	小橋長右衛門父子
		大部谷焼（おべたに）	丹波市柏原町	江戸初～寛永	備前系？
		村森焼 （惣太郎焼）	丹波市山南町村森	江戸初	備前系？、
		稲畑焼	丹波市氷上町	江戸初	文献（郷土史）
		牛河内焼	丹波市春日町	江戸初	文献（郷土史）
		野々村焼	（京都府北桑田郡美山町）	江戸初	（京都府下）文献、野々村仁清？
御室焼			江戸初		
京焼及び 準京焼系	三田焼	王子山焼	篠山市	文政元年（11？）～ 明治2	篠山藩窯、三田焼の兄弟窯、 欽古堂亀祐、神田惣兵衛。再興、 兵庫県伝統的工芸品
		篠山焼	篠山市乾新町	明治39頃～ 昭和初	今村静斎
		古市焼	篠山市丹南町古市	江戸末	三田焼の分窯、神田惣兵衛

	黒井焼	丹波市春日町黒井	幕末～明治25	『日本近世窯業史』、片山庄三郎
	高谷焼			『丹波市年表』
	松林焼			『日本諸国窯一覽』
	山内窯	篠山市山内町	江戸～	

淡 路

系統	系統内 記	名称	所在地	時期	焼き物・その他
京焼及び 準京焼系	珉平焼	珉平焼 (伊賀野焼、淡 路焼)	南あわじ市南淡 町伊賀野	文政～明治19	『賀集珉平伝』(明治 39)、賀集珉平、尾形周 平、黄南京類
		勝瑞珉平焼	南あわじ市南淡 町伊賀野	天保13頃～	御用陶器、中国明時代の祥瑞 器作者い勝つ「勝瑞」称号
		淡陶社	南あわじ市南淡 町伊賀野	明治12～昭和14	櫛田善九郎
		淡路製陶(株)	洲本市原町	明治16～	瀬戸風、田村福平ほか
		オノココ焼 (淡路焼)	洲本市	昭和初	淡路製陶(株)
		忘吾園窯	南あわじ市南淡 町福良	昭和14～20	櫛田善九郎ほか
		津名郡立陶器学 校	淡路市津名町志 筑	明治30～	
瀬戸焼系		志筑焼	淡路市津名町	明治29～37	
		大久保焼	南あわじ市三原 町八木大久保	文化・文政	『八木村誌』、武田善太夫
		唐津山窯	洲本市	江戸初～	『御城山唐津焼』、藩御用窯
		切石窯	洲本市千草切石	江戸中後期～昭和初	唐津山窯より
		大坪焼	淡路市北淡町大 坪	明治7・8頃～昭和 5	吉田久楽
		亀谷焼	洲本市物部	明治維新～明治10	『耽奇漫録』、福田
		雅楽園窯	淡路市東浦町仮 屋	昭和5・6頃～昭和 10	日田重太郎
		上本庄窯	南あわじ市南淡 町阿万	明治～	稲田幸兵衛
		下本庄窯	南あわじ市南淡 町阿万	明治～	稲田幸兵衛
		阿万焼	南あわじ市南淡 町阿万	明治20～昭和10	上本庄窯と下本庄窯と合併、 稲田幸兵衛
		室津焼	淡路市室津		
		青陶園	南あわじ市?		中山玄心
		田村製陶所	洲本市原町	明治16～30	田村福平、久平
		小路谷焼	洲本市小路谷		
		文七焼			

※調査継続中のため本資料は『暫定版』です。

※参考資料：『兵庫のやきもの』青木重雄（神戸新聞総合出版センター）、『兵庫の陶磁～多彩な窯場、その成立と発展を探る～』（兵庫陶芸美術館）、『兵庫のやきもの』長谷川真（兵庫県立図書館講座資料）、「丹波焼」「ひじり屋」等ホームページ ほか

URL

<http://kdskenkyu.saloon.jp/kdsdata.htm/>